

## 姫路市の昆虫 (セミ科)

相坂耕作

### はじめに

閑さや岩にしみ入蟬の声 (芭蕉) 蟬鳴や行者の通る  
午の刻 (蕪村) 初蟬や人投陰をしたふ頃 (一茶) のよ  
うに昔から蟬は漢詩・和歌・俳句や詩の中にまで歌わ  
れ、また我々の生活にも無意識のうちにも、セミに対  
していくらかの親しみは感じているものと思われま  
す。筆者は「てんとうむしNo.6」にて姫路市の昆虫とし  
て蝶、トンボを記したが、今回は姫路市の昆虫として  
セミ科を取り上げてみた。筆者自身も専門的にもセミ  
を採集研究している訳でもなく、どちらかといえば消  
極的な内職イメージでもある。しかし姫路にはどんな  
蟬がいるかと考えた時データがなくては困ることもあ  
るので一応筆者自身が採集した蟬及び姫路市立科学館  
の児童生徒の採集データなども利用させて頂き、全種  
について解説採集データを記して報告しておく。

### ○セミとは

セミは半翅目、半翅亜目に属し、羽化するまで数年  
かかるという昆虫で、成虫になると数日で死ぬという  
運命の短い昆虫である。現在日本に産するセミは36種  
あり、兵庫県下には13種が知られている。そのうち姫  
路市内には8種類が分布し、成虫の出現期もハルゼミ  
のように4月頃から出る種やチツゼミのように9月  
頃出る種とまちまちである。幼虫は土の中で、木の根  
から液を吸収し羽化はおもに夕方から早朝にかけてお  
こなわれる。成虫は木の汁や果物などの汁も吸う。

### ○クマゼミ

(*Crypto tympa japonensis* Icatō)

姫路では最も普通に産するセミのうちの1種で瀬戸  
内海側には特に多い。西日本ではセンダン、カキなど  
に多い。鳴き方はシャアシャアかシャシャシャである。  
姫路市の書写山、広峰山、増位山などは7月上旬より  
出現する。

#### 〈採集例〉

姫路市姫路城	1♂	1—VIII—1965	col. 相坂耕作
姫路市飾磨区	1♀	2—IX—1982	col. 相坂耕作
姫路市勝原区丁	1♂	27—VIII—1983	col. 前田和彦
姫路市四郷町	1♂	5—VIII—1983	col. 古谷夕子

### ○アブラゼミ

(*Graptopsaltria nigrofuscata* Motschulsky)

日本全土に最も普通な種であり、姫路市内でも最も  
多いセミである。この普通種のセミでも幼虫期間は6  
年もかかるといわれている。特にナシやリンゴなどの  
果樹園に発生して意外な害を与えることがあるという  
成虫・幼虫ともに果樹害虫である。名前の由来は鳴き  
方が、油で揚げものをしている時の音に似ているから  
でジージリジリジリと鳴く。7月上旬より出現。

#### 〈採集例〉

姫路市山田町牧野	1♂	12—VIII—1964	col. 相坂耕作
姫路市勝原区丁	1♂	8—VIII—1983	col. 前田和彦
姫路市書写山	1♂	7—VIII—1983	col. 古谷夕子

### ○ニイニイゼミ

(*Platyleura Kaempferi* Fabricius)

この種も最も普通な小型種で、姫路地方では6月下  
旬の梅雨あけのころから至るところでチー……と鳴  
きはじめる。各種の樹木に生息し、8月には個体数は  
減っていき9月初旬まで見られる。姫路の各地にいる。

#### 〈採集例〉

姫路市山田町牧野	1♂	4—VIII—1968	col. 相坂耕作
姫路市飾磨区入船町	1♀	10—VIII—1983	col. 相坂耕作
姫路市四郷町	1♂	5—VIII—1983	col. 古谷夕子

### ○ヒグラシ

(*Tanna japonensis* Distant)

姫路市では書写山や、増位山、広峰山その他の低山  
地に生息していて、7～8月に多くおり、その鳴き方  
は特徴があり、カナカナカナとの金属音を発する。好  
んで夕刻や曇天に鳴き、ここは山だと証明している鳴  
き声である。

#### 〈採集例〉

姫路市書写山	1♂	30—VIII—1974	col. 相坂耕作
姫路市書写山	1♂	7—VIII—1983	col. 古谷夕子

### ○ハルゼミ

(*Terpnosia vacua* Olivier)

書写山など姫路の低山地に4月頃から5月中旬くら  
いまで鳴いている。松林におりムゼームゼー又はゲー  
キョ・ゲーキョともギィァーギィァーともきこえる。  
鳴き声の割には成虫は案外採れないようである。

#### 〈採集例〉

姫路市山田町藤の木山	1♀	9—V—1982	col. 相坂耕作
------------	----	----------	-----------

## ○ツクツクボウシ

(Meimuna opalifera Walker)

姫路方面では夏休みの終り頃より現われる出現の遅いセミで何といっても、その鳴き方に特徴がありウホーシツクツクとかツクツクポーシとか、に聞こえてくる。このセミは平地や低山地にも普通に産している。ミズキやエゴ、ヒマラヤスギなどにつく。

## 〈採集例〉

姫路市南畝町 1♂ 20—Ⅷ—1964 col. 相坂耕作  
 姫路市飾磨区入船 1♀ 30—Ⅷ—1982 col. 相坂耕作  
 姫路市四郷町 1♂ 5—Ⅷ—1983 col. 古谷夕子

## ○ミンミンゼミ

(Oncotympana maculaticollis Motschulsky)

ミンミンミンミンミーをくり返し鳴くので、何の蟬かすぐ判る。姫路市の各低山地におり特に書写山には多いようである。サクラやヒマラヤスギにつき、大型の蟬である。

## 〈採集例〉

姫路市書写山 1♂ 31—Ⅷ—1974 col. 相坂耕作  
 姫路市林田町奥佐見 1♂ 13—Ⅷ—1983 col. 前田和彦  
 姫路市広峰山 1♂ 22—Ⅷ—1983 col. 古谷夕子

## ○チッチゼミ

(Melampsalta radiator Uhler)

小型の蟬であり多くないらしく採集例は少い。出現が9月頃もその要因であるが、海岸から山地にまでいるようである。姫路の男山、藤の木山などで記録があり、書写山にはいないようで、増位広峰山系でも1982年度の環境調査の際も得られていないようである。たまたま筆者の工場で2度も採集したので採集例を記しておく。またこの蟬は夜間水銀燈にきていたものらしく、2度とも筆者の工場の水銀燈下で得られたものである。鳴き方はチッチッチでアカマツ・スギなどにつくという。

## 〈採集例〉

姫路市飾磨区入船町 6—Ⅸ—1982 col. 相坂耕作  
 姫路市飾磨区入船町 12—Ⅸ—1980 col. 相坂耕作

以上8種の記録を得て姫路市に生息する蟬相の大体のようすが判かって頂けたと思う。しかしこれは採集の一例であり以後も採集記録等を充実して完全な蟬相となる様にしたいと思います。なお兵庫県下には13種のセミが知られており、姫路市のセミ科の貧弱さが判って頂ける。その要因としては、姫路市には標高の高い山(書写山で363m程度)がなく高地性のセミであ

るコエゾゼミ・エゾハルゼミ・エゾゼミなどが生息していないからである。しかし昨年(1983年)度の姫路市立科学館主催の児童生徒の創作工夫採集品展にて当地でのエゾゼミの採集品を見たが筆者としては、あまりにも古い標本で他のラベルと較べるとテタラメが多く数年以上たった他府県の標本であると思われ記載しなかった。またエゾゼミは標高の関係からと、一部の人の目撃例などもあり分布可能な種とあげられる。

姫路の隣りの加西市ではヒメハルゼミが分布しておりこの種はシイ林に住んでいるということで、書写山や竜野の鶏籠山などにシイ林があると聞かすが、このセミはシイ林があっても生息しないところがあり、特に樹齢が若く見えても、おそらく4~5,000年の昔からのシイ林でないといけないという。難しい問題があり、分布はしないと思われる。

## 参考文献

- 桑原 一(1976) 増位山のセミ 趣味の生物No.18  
 姫路西高等学校生物部  
 奥谷禎一(1976) 県下のセミ 新・兵庫の自然  
 兵庫県生物学会編

(S. 05 : Kousaku Aisaka

姫路市

)

## マツノマダラカミキリの天敵の一つ

黒田 収

マツノマダラカミキリはマツノトビロカミキリとも言われ、トビ色のあまり美しいカミキリではなく、毎年初夏になると新聞紙上をにぎわす害虫である。

1983年7月中旬、姫路市内の北部にある広峰山の登山道路上にてスズメに捕食されているマツノマダラカミキリを目撃した。発見当時は捕食されている昆虫が何んだか判断出来なかったが、車を止めて確認してみると、腹部の比較的やわらかい部分を食いちぎられ、頭部と触角及さやばねのみのマツノマダラカミキリを発見したのである。腹部がないのにもかかわらず、さかんに触角を動かしていた。以上のようにマツノマダラカミキリの有力な天敵の一つにスズメが加わっているものと思われる。

(S.14 : Osamu Kuroda 姫路市

)